

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200260		
法人名	社会福祉法人 慈孝会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 麗の郷なごみ		
所在地	二戸郡一戸町姉帯字下村24-1		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373200260&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

礼節を旨とし、その人の可能性を引き出しながら、その人らしさを大切にし、いつも寄り添ったケアを提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白い岩肌を持つ山やまの麓を清らかな馬淵川がゆったりと流れ、その川辺には田や畑が広がりどかな田園地帯となっている。そんな静かな地域に母体の特養に守られているようにグループホームなごみの建物があり、廊下でつながっている。雨天や冬期にはこの廊下を渡って特養やデイサービス事業所に出かけたりして運動不足解消をしたり、顔なじみの職員や知人、入所者達と交流を楽しんでいる。又、併設の強みを生かした合同の行事や防火訓練なども行われている。このホームは木造の温かさと、ゆったりとしたスペースとを兼ね備えている。ホームの職員の移動も極力控え、馴染みの関係を壊さないように配慮している。反面、馴れ合いにならないように気をつけているとの管理者のお話だった。昼食を一緒に食べていただいたが、職員は利用者をせき立てることもなく、終始利用者のペースで笑い声や笑顔がいっぱいの食事風景だった。利用者も職員もとても穏やかであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの全体職員会議で確認、周知している。 ・朝のミーティングで理念・方針を唱和している。 ・毎月末のなごみ会議で議題に取り上げて意識統一を図っている。 	「法人一体となって、広く人々に、常に時代の先端を行くコミュニティ施設として「アメニティ」や「ホスピタリティ」に満ち溢れたサービスを提供し続けるよう努め、その実現を通し社会の発展に貢献します」平成23年に法人理念をこのように見直し、日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、工事中のため地域との交流が難しい。昨年手打ち蕎麦交流会を実施したので又取り組んで見たい。 ・元気な方は地域の理髪店や個人商店に出向き気分転換を図りたい。 	町の老人クラブの運動会会場は遠隔地であるため、地域の参加者の送迎を引き受けた事がきっかけとなり、法人の敷地の草取りや、施設の夏祭りの準備や、お餅の提供などをさせていただくようになり、夏祭りは今では地域をあげての楽しみごと	に発展している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談・支援の体制は整えているがアピール不足のところもあると思われるので、これからの課題としたい。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員会に地域の方々が委員として参加し、討議しているが意見の出にくいところがある。少人数化等開催方法や内容の検討が必要であると感じている。 	こちらのホームでは利用開始と同時に家族の方には運営推進委員になっていただいている。多くの意見を頂き運営に反映させていきたいとして、会議のあり方を考えていかなければと感じているところである。	いつものメンバーに地域の民生委員や駐在さんをお願いしてみるなど顔ぶれが変わると意見や話題も変わってくると思われる。又開催時間も検討してみる。食事をともにながらの開催も考えてみていただきたい。次回のテーマを伝えておき、意見を持ち寄って参加して貰うなどの工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の担当者と連絡を密にするよう努めていきたい。 ・法人の広報誌「せきれい」を姉帯地区には各戸に配布している。 	法人内としての大きな行事はもちろんのこと、運営推進会議にも必ず参加をしていただき、アドバイスや町としての考えをお聞きして、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを元に利用者の行動を制限しないよう心掛けている。 ・身体拘束に関する勉強会を開催予定 	身体拘束を必要とする方は一人もいない状況である。職員は言葉遣いにも気を配り、言葉による拘束とならないように務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関する勉強会を行い防止に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性がある場合には対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に十分な時間をとり説明した上、契約書を持ち帰り熟読してもらった後、契約をとりかわしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情事、相談事受付ポストを設置。 ・面会や行事の際、運営推進会議で顔を合わせた際に意見や要望等を聞くようにしている。	アンケートの実施(年1回)や家族の来所時に積極的に意思疎通を図り、意見や要望を出していただくように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のマネジメント会議に参加しての場で可能。	ホームの「なごみ会議」は月に一度開催され、そこでマネジメント会議に提案することや要望、意見などを出し合い代表者を通して伝えて貰う。また、マネジメント会議での報告もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・交流の場・趣味事をもつことを推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人職員研修を初めとし、外部研修や法人内での勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会定例会への参加。 ・他グループホームとの交換研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所申し込みの際、聞き取りに充分時間を取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談の際、詳細に聞き取りを行うことでニーズを見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等できることは声を掛けて行ってもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・通院や行事等家族へも声をかけて参加してもらうよう促している。家族への声掛けはさらに密にしていく必要があると感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・特養に移動したお客様との交流を持つようになっている。	知人や友人達も、デイサービスに来たついでに立ち寄っていたが、利用者の介護度が進むと疎遠になる傾向にある。馴染みの美容師や理容師が出張してきてくれているが、天気のよい日にはこちらから出かけることを検討しているところである。スーパーに買い出しに行ったときに偶然知り合いに会うたのしみもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・お客様同士の相性を考えた対応や配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要があれば支援できるように努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用時の面談、その後の生活の中での会話等から希望や意向を把握できるようにしている。	職員1名が利用者1～2名の担当者となっているので、ほとんどのことは把握できている。どうしても、意向把握ができないときには予測を立てて対応する場合もある。教会の日曜礼拝に参加することに向けて、家族の都合がつき次第実施する予定で待っている方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用時の面談で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・24時間シートを用いることで一人ひとりの状態を把握できるように努めている。 ・なごみ会議で変化がある場合には検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・24時間シート、なごみ会議、サービス担当者会議を通し、必要とされているサービスを見極め介護計画を作成するよう努めている。	センター方式に移行後、24時間シート等を使用して諸会議でも検討が重ねられ、きめ細かな介護計画を作成するために努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・会議で情報を共有しより良いケアを提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・傾聴ボランティア等を受け入れたいと考えている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・「地産地消」をテーマに食事のメニューを考え買い物などに出かける取り組みを行っていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所では協力病院を設定しているが、家族の希望でなじみのかかりつけ医への受診対応を行っている。	馴染みのかかりつけ医に受診する場合は、書面にて本人の情報の提供をしている。また、家族対応ができない場合は通院費として300円を頂いて対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・必要時には看護師に相談し助言や指示を受けた上で支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・こまめに面会し入院後も状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約書に記載あり、重度化した場合には併設されている特養での対応が可能となっている。	当ホームでは設備面が整っていないので、終末期ケアはしていない。担当者を含む会議の中で、特養に移るタイミングを見極めて対応している。職員には特養で終末期ケアを担当した経験者も居る。家族には、入所時に重度化した場合の説明をして了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを元に研修なども実施しながら対応できるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防災訓練を行っている。 ・昨年末から年初にかけての大雪被害、3月の大震災、10月の台風の影響による河川の増水などで実際に避難している。	防災訓練には消防広域分署の協力を得て夜間を想定した訓練を実施している。また、最近あった避難経験を活かして、投光器や発電機、ガスボンベ、などを備えた。長期間保存の利く食料などの備蓄も再検討している。ホームの掲示板には出火場所別による避難経路図も掲示しており、なごみ会議のたびに確認しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・マニュアルを元に対応している。	職員は利用者の立場に立って、自分がやってほしくないことは絶対にやらないという対応を心がけている。トイレ誘導も一人一人にしっかりした対応をするように確認をしている。マニュアルの勉強会も今年中に計画されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・毎日の着替えや入浴時の衣類の準備、嗜好品の選択など利用者を選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備や後片付け等一緒に行っている。 ・週1回は夕食の食材の買い出しにも出かけるようにしている。	材料を切ったり、米を研いだり、盛りつけをしたり、食器を洗ったりお盆やテーブルを拭いたりと得意分野を職員と一緒にやっている。ホーム独自の献立は週に一回実施して楽しんでいる。誕生会にはおやつを作りお祝いをしている。又、年に2回はお弁当を作りバスハイクに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・確実な食事と水分が摂取できるよう一人ひとりの状態を確認し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・本人の力に応じた口腔ケアに努めているが、拒否が強い利用者の中には毎食後行うのは難しいケースもある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、日中は全員がトイレでの排泄を行っている。	東京でのオムツ外しの講習会に通い、毎日の水分摂取の訓練から始めて、念のためのパットや、リハパンは使用しているものの現在では日中はトイレで排泄できるようになった。また毎日1500ccの水分摂取をするようになってからは下剤に頼ることが減ってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日に1500mlの水分摂取を行う取り組みを行っており、下剤へ依存する割合は徐々に減少してきている。 ・飲み物や食品を工夫することも必要であると感じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・目安としての入浴予定表はあるが、個人の希望に合わせた対応をしている。	入浴習慣のない方や嫌いな方にも、2週間に一回程度は入浴していただくように動機付けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室、囲炉裏の間、ソファを活用し個々に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・投薬説明書を読んで把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々に合わせた役割作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ミニハイクや食材の買い物等を行っている。 ・工事中の為、平日は行動が制限されているが日曜日には散歩なども行っている。	工事のため、平日は希望者を募り、廊下を渡って中庭に出て日光浴や外気浴、特養の中を散歩している。週に一回食材の買い出しにも車と一緒に出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望がある場合は対応したい。 ・物盗られ妄想がある方の場合には対応が難しい場合もあると感じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族から電話があった場合には取り継いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に応じた装飾を施している。	全体に木を多用しているため、温かい雰囲気のあるホームである。椅子やテーブルも余裕のある大きな物を使用しているためゆったりとした感じがする。共用の空間には季節に合わせた生花や、手作りのクリスマスツリーが飾られて、温かさと華やかさを醸し出している。畳敷きの共用空間には炬燵がしつらえていて、自宅のように昼寝を楽しむ方達が居る。共用空間は、あと2カ所あり、ともに大きなテーブルとゆったりとした椅子や長椅子もしつらえてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・1丁目、2丁目、3丁目と別れた空間があり、ソファ、囲炉裏の間、テーブル等思い思いにくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前の説明書に記載しており、面談時等に口頭でも説明して推奨している。	家族と会うたびに以前使用していた物の持ち込みをお願いしても実現しない。衣装ケースや時計、最近は聖書を持ち込んだくらいである。部屋は清掃が行き届き、よく整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・夜間の対応として、本人からの訴えや、居室で休むには安全に不安があるお客様は囲炉裏の間で休んでもらっている。		